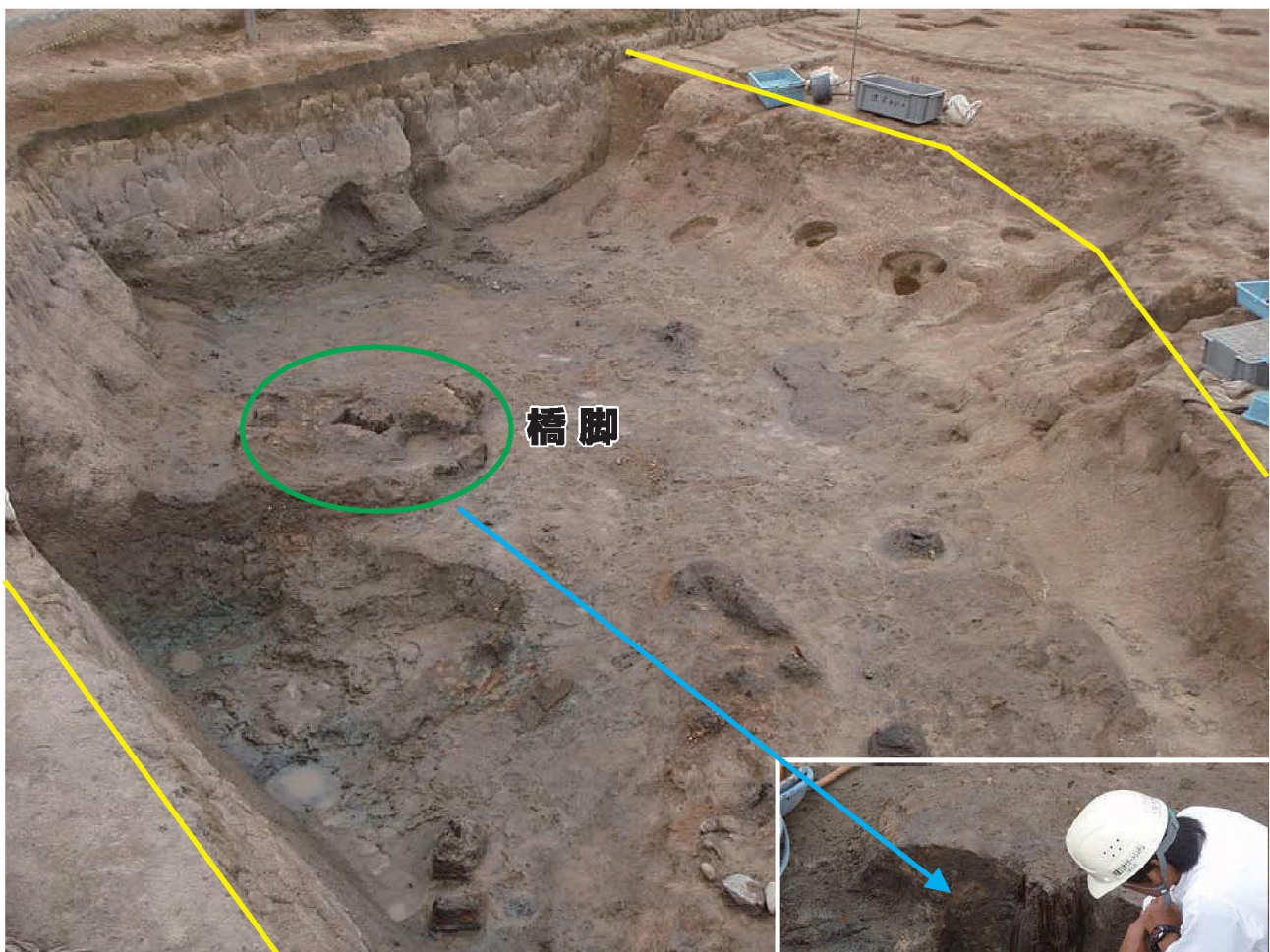


ひろしの遺跡

第103号

弥生時代の環濠に橋脚発見

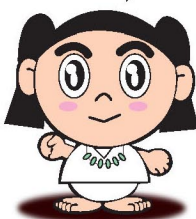
(福山市 御領遺跡)



幅8m, 深さ約2.6mの巨大な溝を調査

弥生時代の
大きな橋だって

すごいね



ひろちゃん



やよいちゃん

黄色の線は溝の幅, 緑色の円は橋脚部
右下は橋脚部に残っていた橋脚材

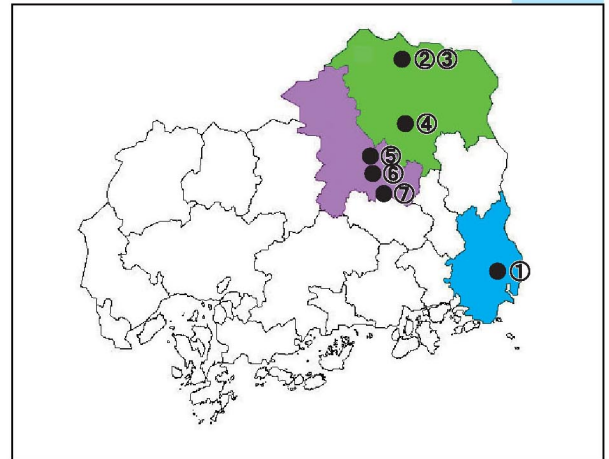


発掘調査略報

ごりょう 御領遺跡(福山市神辺町)

調査期間 6月22日～9月18日

御領遺跡は、福山市神辺町に所在します。東西約1.6km、南北約1.4kmの範囲に広がる、縄文後期から中世の集落遺跡です。この調査は国道313号道路改良事業に係る発掘調査で、今年度の調査区は遺跡西端に位置します。調査の結果、縄文後・晩期と弥生時代中・後期から古墳時代にかけての集落跡を確認しました。調査区西端で検出した溝S D 1は、復元すると幅約8m、深さ約2.6mの遺跡最大級の水路です。溝内からは弥生時代中期後半から後期の土器や、加工痕のある板状木製品が出土しました。注目されるのは、溝底から直径約15～20cm、残存する長さ38cm程の橋脚材が良好な状態で出土したことで、当時の土木技術を推測できる貴重な資料です。御領遺跡は、川の堆積によって形成された沖積平野に立地します。



肥沃な土が豊穡をもたらす反面、常に洪水の危険がある土地でした。溝を築き集落を区画するとともに、溝の給排水によって土地の保水量を調節し、水害を防ぎ作物の生産力を向上させようとする、集落の人々の知恵と工夫が解き明かされようとしています。(地図①)

おか 岡2号遺跡(庄原市高野町)

調査期間 4月13日～5月15日

岡2号遺跡は、神野瀬川に向かって南西に延びる丘陵尾根の麓(標高535m)にあり、周辺にはリング畑や水田が広がっています。調査の結果、竪穴式住居跡1軒、土坑1基、性格不明遺構1基などが見つかりました。住居跡は南側が失われていましたが、方形状のものと想定され、出土遺物から6世紀頃に造られたと考えられます。高野町においては竪穴住居跡の初例であり、古墳時代における当地域の様子を探る上で良好な資料といえます。(地図②)

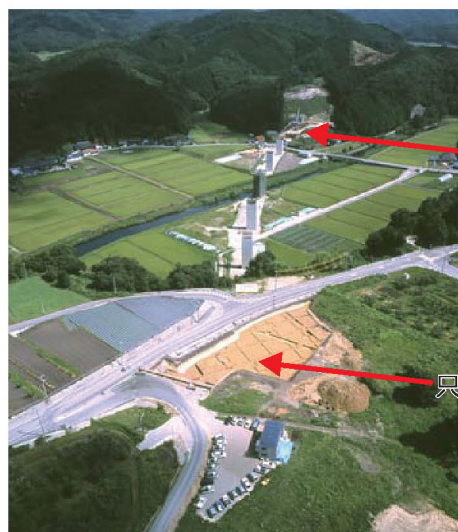


岡2号遺跡竪穴住居跡調査風景



只野原3号遺跡は、岡2号遺跡から神野瀬川を挟んだ南側丘陵上(標高552m)にあり、周辺は畑となっています。調査の結果、縄文時代1層・旧石器時代2層の計3層にわたる文化層を確認しました。縄文時代層では土坑5基、ハンマーストーン・石鏃・尖頭器などの石器類や縄文土器を、旧石器時代層でも剥片や火を受けた礫群などを確認しました。高野町で旧石器が確認されたのは初めてで、各文化層の前後に遺跡の時期特定に重要な火山灰がしっかりと堆積していることから、県北部の旧石器文化を探る手立てとなりそうです。

(地図③)



岡2号遺跡

只野原3号遺跡



只野原3号遺跡
縄文時代文化層出土遺物



只野原3号遺跡
旧石器時代文化層調査風景

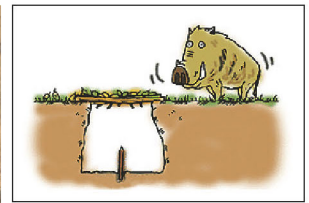
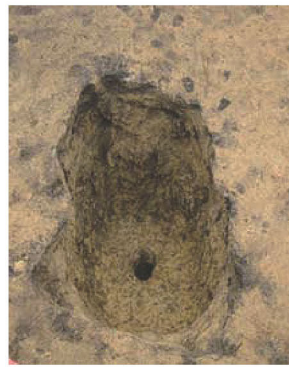


石谷2号遺跡は、北から南に延びる低丘陵上にあり、麓には西城川が低丘陵に沿って「U」の字状に流れています。隅丸長方形の土坑3基、円形の土坑1基が見つかり、これらは縄文時代の落とし穴とされます。土坑は6m間隔で並び、^{けものみち}獣道を意識した配置になっていました。隅丸長方形の土坑は縦120～125cm、横65～70cm、深さ70～80cm、円形の土坑は径90cm、深さ100cmです。土坑の底には中央に径10～15cm、深さ20～25cmの小穴があり、先を尖らせた杭が設置されていたと思われます。



石谷2号遺跡
等間隔に並ぶ4基の落とし穴

石谷3号遺跡は古墳時代の集落跡で、2号遺跡と同じ低丘陵上にあります。竪穴住居跡2軒、土坑2基、性格不明の遺構2基、柱穴などが見つかりました。一辺約4.4mの方形の竪穴住居跡には造り付けのカマドが設置され、その隣には廃棄されたカマドの跡があり、壁面に沿って平らな石材で塞がれていました。住居跡から須恵器片・土師器片が出土し、時期は6世紀後半頃と思われます。(地図④)



石谷2号遺跡
落とし穴と想像図



石谷3号遺跡 竪穴住居跡
右側の石がカマド



石谷3号遺跡全景



さんしげ
三重1号遺跡(三次市四捨貫町) みよし ししじっかんまち

調査期間 4月13日～9月25日

遺跡は5世紀中頃から7世紀初頭を中心とする時期の集落跡で、西から東へ延びる丘陵尾根に立地しています。調査区は東西に2分割され、遺構は主に西側の調査区で見つかりました。竪穴住居跡23軒、掘立柱建物跡2棟などです。竪穴住居跡はいずれも平面形が方形です。床面中央の炉跡付近を中心に小鉄塊が広がり、鍛冶作業をおこなった可能性が高い竪穴住居跡や、袖部の片側がL字状に屈曲する特異な形態のカマド(L字形カマド)をもつ竪穴住居跡などが見つっています。出土遺物は土師器、須恵器、製塩土器、土錘、磨石、敲石、携帯用砥石、刀子、鉄鏃、鉄滓などです。

また祭祀遺物である剣形石製模造品、有孔円板、白玉が竪穴住居跡から出土しており、集

落内で何らかの祭祀が行われたことが推測できます。集落内での祭祀の様子を明らかにする上で、貴重な資料が得られました。(地図⑤)



三重1号遺跡全景



三重1号遺跡 左:SB13(2本柱でL字状カマド)
中:剣形石製模造品
右:有孔円板

はたけじり
畑尻遺跡(三次市三良坂町) みよし しみらさかちょう

調査期間 4月13日～6月5日

畑尻遺跡は、江の川の支流である馬洗川が上下川と合流する地点から南側の水田地帯に位置しています。調査の結果、掘立柱建物跡1棟・土坑22基・溝7条と柱穴を多数確認しました。最も古いものは旧石器時代後期後半頃の石核(隠岐島産黒曜石)とハンマーストーンが出土した土坑で、出土状況から石核を置いてハンマーストーンを置いたと考えられます。等高線に沿って並んでいる土坑は、底に径30cm、深さ30cm程度の小穴があること、土坑内から石鏃と黒曜石の剥片や縄文土器などが出土していることから、縄文時代の落とし穴

と考えられます。他の土坑や掘立柱建物跡・柱穴は、出土した遺物から中世～近世の時期と考えられます。

旧石器時代の石核とハンマーストーンは土坑内から出土しており、三良坂町では調査によって確認した初例であり、県北域でも遺構に伴う例は初例です。

また、2007年度に調査を行った奈良・平安時代の若見迫遺跡と同一の丘陵に立地しており、遺跡全体の変遷を考える上で良好な資料を得ました。(地図⑥)



畑尻遺跡
左下:落とし穴
右下:旧石器時代の遺物

平成21年度「ひろしまの遺跡を語る」を開催しました

- 日 時 平成22年1月16日(土) 13時～16時45分
- 会 場 広島県立総合体育館 武道場
- 内 容 ・講 演 卑弥呼と箸墓古墳
国立歴史民俗博物館名誉教授 春成 秀爾氏
- ・報 告 曾川1号遺跡 当埋蔵文化財調査室長 岩本 正二
曲第2号古墳 調査研究員 山澤 直樹
馬ヶ段遺跡 調査研究員 渡邊 昭人

今全国的に注目されている「卑弥呼と箸墓古墳」についての講演会を開催するとともに、埋蔵文化財調査室が近年発掘調査を実施した遺跡や遺物、修復が終了した曲第2号古墳出土の短甲なども紹介しました。

定員いっぱいの300名を超える参加者があり、展示会場も盛況でした。



講演会場



講演中の春成氏



展示会場



曲第2号古墳出土の短甲
(県内で11例目の古墳時代のよろい)



(財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化調査室報 ひろしまの遺跡 第103号

発行日 平成22年(2010)年3月19日
編 集 (財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目8番49号
TEL(082)295-5751
ホームページ <http://www.harc.or.jp>
E-mail maibun@harc.or.jp
発 行 (財)広島県教育事業団
印 刷 理研産業株式会社